

SF から出たまこと

— 未来を予測した戦前のよみもの —

平成4年10月27日(火)～11月21日(土)

明治に入って、西洋の文化が輸入される中、SF小説は明治元年にジラス・コリデス著『全世界未来記』が翻訳されたのを皮切りに一般に広がっていきました。文明開化の波に乗って新しい時代へと社会が変貌をとげる不確定な世の中で、遊び感覚的に未来を予想した大衆文芸から西洋の科学技術による進展を夢見たユートピア物語、幅広い分野の知識人によって予測された雑誌まで登場し、中には40%近くの中させたといわれる小説まであります。

今回の展示では、戦前までのSF小説に焦点をあて、想像の世界が現実化されたものを中心に「テクノロジー」「社会」「風俗生活」の分野からその一部を紹介します。

展示資料リスト

1. 第二世紀 世界進歩

ロビター 著 服部誠一 訳

大阪 岡島宝玉館 1886 211p

<26-281>

20世紀の科学技術の進歩した社会で主人公が太平洋中に人工の新大陸を作る。

2. 暗黒星 英和对訳科学小説

シモン・ニューコム 著 黒岩涙香 訳

東京 朝報社 1904 87p

<79-428>

太陽に流星が衝突する危機に備えた地下シェルターが書かれている科学的短編小説。

3. 日本青年海底大探検

野村大濤 著

東京 成功雑誌社 1908 226p

<特13-207>

発明された潜水衣を着用して、海底を男女3人が探検する。

4. 雪中梅

末広鉄腸 著

東京 博文堂 1888 135p

<特13-505>

2040年頃の社会から、明治19年当時の社会を回顧するSF的手法を使った政治小説。交通・通信が発達して、東京が大都市になることを予測。

5. 番茶会談

幸田露伴 著

『現代日本文学全集』 第33巻 改造社 1936 p27~66

<918.6-G295>

新しいもの好きの文豪幸田露伴が書いた科学啓蒙の未来予測小説。

6. 二十世紀新亜細亜

服部誠一 著

東京 菁莪社 1888 213p

<21-67>

7. 空中征服

賀川豊彦 著

東京 改造社 1928 253p

<582-31>

公害を予言した風刺小説。「工場の乱立による煤煙やスモッグのために、大都市が壊滅する」と警告している。

8. ロボット

カレル・チャペック 著 鈴木善太郎 訳

『新興文学全集』 第20巻 独逸篇Ⅲ 平凡社 1930 p519~612

<566-44>

この小説で初めてロボットが登場した。ロボットはチェコ語で“労働者”という意味。

9. 冒険世界

1911年6月号 博文館

<雑19-121>

「最近の科学的珍聞」 時刻を声で知らせる時計。

10. 百年後の日本

松谷与二郎 著

東京 光学社 1930 512p

<603-27>

SF作家横田順彌氏が的中率40%と評価する未来予測小説。目次には生活に密着した項目が並ぶ。

11. 予言する日本人

加藤英俊 解説 竹内書店編集部 編

東京 竹内書店 1966 399p

<304-Ta582y>

雑誌『日本及び日本人』に掲載された「百年後の日本」の復刻版。

《参考展示》

百年後の日本

日本及び日本人 1920 春季増刊号 マイクロフィルム

<YA-15>

当時の政財界・文化人など代表的 250 人による百年後の日本の予測。中村不折、大野静方によるマンガ(未来予想画)から抜粋(縮小)。